

# 湯沢CS通信

令和6年7月12日 第72号

(発行) 湯沢市教育委員会

学校教育課 CS担当

## 学校運営協議会に参加して

各校の学校運営協議会に参加させていただいていますが、今回は湯沢南中学校と湯沢北中学校の様子を紹介します。

湯沢南中学校では、校長先生が「生徒・保護者・地域等への情報提供と目標・ビジョンの共有・課題解決」「学校報」等による学校やCSの取組についての地域全体への周知「学校課題や地域要望に対する十分な議論の場の設定(熟議)」など学校運営協議会として取り組みたいこと(実施計画書に記載した内容)を提案しました。この提案を受けた委員の皆さんの発言などから、校長先生の熱い思いに込めたいという意気込みが伝わってきました。

また、湯沢北中学校では、一回目の協議会に十四名教員が参加していました。教員や保護者のCSに対する理解が十分であることが本市のCS推進の課題の一つになっています。教員が学校運営協議会に参加してその状況を把握したり、教員の立場で発言したりすることで課題解決に結び付くと考えます。



## 校長先生の「CSに対する思い」 Part 2

### 「学校・家庭・地域のカタチ」

湯沢北中学校長 丹 俊章

「社会で通用する力・姿」を、一年かけて生徒にカタチにしてもらいたい。生徒総会全校縦割りグループ、週一のミニ討論短学活での話し合いなどを重ねたが、なかなか具体は手に入らない。そんな時、CS委員の方から「身近な大人は、生徒の未来の姿」という言葉をいただく。学校・家庭・地域が、連携・協働している姿にこそ、生徒はカタチを見るのではないか。今後も熟議を通して多くの人のつながりで、生徒の成長を後押ししていきたい。



### 「わが大山田」のために」

山田中学校長 大沼由和

本校の生徒には、将来自分を育んだ故郷のことを思い、恩返ししていかうという気概をもつてほしいと考えています。よい頃合に生徒の母校である山田小学校が創立百五十周年を迎えます。その記念事業に中学生ができることを、ほんの少しお手伝いさせてもらうことになりました。そして、かつて先輩方が誇らしげに自稱した「大山田(ダイヤマダ)」という言葉子どもたちのものにするために、CSにも大きな期待をしています。



## 「子どもの笑顔は、地域の宝」

湯沢南中学校長 高橋 清隆

「今年の運動会！盛り上がった！」「子どもの力だ！地域が元気になった！」と三関大運動会に参加した地域の方から電話をいただきました。生徒会執行部が昼の放送で呼びかけをしたところ、三関地区以外の子どもたちも各種目に積極的に参加し、地域の方々に沢山の笑顔をお届けするとともに、温かい交流の輪を広げることができました。これからも地域の方々と心をひとつにして「子どもの笑顔」を大切にしていきます。



## 「地域の強みを生かして」

稲川中学校長 船山 育士

稲川中の学校教育目標は「生徒も職員も保護者も地域住民も誇りをもてる学校づくり」です。学校や地域の強みを磨いていくことが、やがての「誇り」につながっていくと考えます。ここ稲川には、その強みがたくさんあります。今年度のCSの柱は①iNAゼミを通じた地域貢献②防災研修を通じた地域連携③部活動の地域移行です。これらのテーマについて、生徒、職員、保護者、地域住民、みんなで協議しながら、稲川の強みを最大限に生かして地域活性化につなげていきたいと思えます。



## 「生徒の主体性、発信力の向上を目指して」

雄勝中学校長 伊藤 秀樹

今年度は一回目の協議会から学校の課題（「生徒の主体性、発信力の不足」）の解決策について検討しました。この課題を解決するため、委員から提案されたのが「雄勝地域のことにについて伝える」、「商品を開発して販売する」、「防災教室で学んだことを伝える」の三つです。今後、各委員がプロジェクトチームに分かれ、事業を担当することになります。生徒がどのように変わっていくのか楽しみみです。



## 「『未来にきらめく力』の育成に向けて」

皆瀬中学校長 池田 隆

保護者のみならず地域の方々の協力的で温かい人柄や風土を背に、様々な学習活動や体験活動を実施させていただく中で、生徒一人一人の「未来にきらめく力」を醸成しております。とりわけ総合プロジェクトでは、地域の力をお借りしながら生徒の主体的で積極的な学びを通して皆瀬を元気にしていけたらと思っております。「iNAスタンプ第二弾も鋭意制作中です。『皆瀬中があってよかったな』と思われる学校づくりを目指します。」

